6. 学習・教育目標，科目，評価方法および評価基準

表 4-1 に学科の教育目標と JABEE の評価基準を達成するための専門科目とその評価方法，評価基準を示します。

表 4-1 学習・教育目標とその評価基準

学習・教育目標		評価方法	備考
（A）地球と人を思いやる豊かな感性と高い倫理観の養成	地球環境を一つのシステムとして化学的，生物学的に理解し，社会が持続的発展をするために環境に配慮した物作り方法や環境修復方法を考察することができる． （A1）	「環境化学」で，地球環境の変遷や環境改変の現状と問題点を化学的観点から中間テスト（30%），終了テスト（55%），課題提出（15%）により評価する． 「資源循環化学」で，廃棄物の処理の技術や問題点，リサイクルの意義を理解していることを，確認テスト（75%），レポート（25%）により評価する． 「基礎高分子化学」で，高分子材料の特徴を学び高分子材料のリサイクルに関する基礎的な知識のあることをレポート（30%），中間テスト（30%），終了テスト（40%）により評価する． 「公衆衛生学」で，生活環境の中で衛生が果たす役割や，衛生を実践するために必様な知識を持っていることを，小テスト（20%），中間テスト（30%），終了テスト（50%）により評価する．評価の 25%に相当する． 基礎教育総合科目の専門基礎・自然科学科目群の科目，特に「地球の科学」，「宇宙の科学」，「物質の科学」により，生物を含む地球のシステムとしての姿，人間社会との関りを理解していることを，小テスト，終了テストにより評価する．	専門課程科目「環境化学」，「資源循環化学」，「基礎高分子化学」，および基礎教育総合科目の「地球の科学」，「宇宙の科学」は，学科目標 A1 のコアとなる科目である． その他の科目を含めポイント総数が 20 ポイントを超えること．
	技術者として，自らの社会的責任を理解して行動するための基礎知識を持っている． （A2）	基礎教育科目の「工学倫理」で，事例学習を通じて技術者としてのあり方・心構えなどを自ら考えることができることを，レポートあるいは試験により担当者ごとに評価し，まとめて最終評価とする． 「フレッシュマンゼミナール」で，職業観を育成し，技術と社会の関係を考える能力を，グループプレゼンテーションにより評価する．グループゼミナールに取り組む姿勢・態度（50%），技術者と社会に関するレポート（25%），プレゼンテーション（25%）により評価する．評価の 75%に相当する． 「卒業研究ゼミナール」で，産業および企業を研究し，現実の社会で産業・企業がどのように社会と関係しているかを学び，専門分野の技術がどのように生かされているのかについて，ゼミナールに取り組む姿勢・態度・レポート（80%），終了テスト（20%）により評価する．評価の 50％に相当する 「知的財産法」で，知的所有権保護の意義と限界を確実に理解した上で，基本的用語，法的要件を習得していることを，小テスト（40%），期末テスト（60%）により評価する．評価の 75％に相当する． 「グリーンケミストリー」で，グリーンケミストリーの概念，定義，特徴を理解し説明できること，生物および化学を融合した分野でグリーンケミストリーを利用した技術について説明できることを，小テスト（65%），終了論述テスト（35%）により評価する．評価の 50%に相当する．	左記の授業科目を必ず履修し，単位を取得していること（必修科目，卒業要件に含まれる科目）． 左記の科目は学科目標 A2 のコアとなる科目である． 教育目標を達成するために必要な 35 ポイント中 31 ポイントをこれらの科目で達成する．

学習・教育目標		評価方法	備考
（A）地球と人を思いやる豊かな感性と高い倫理観の養成	化学物質およびバイオ材料の安全な取り扱いに関する知識を持っている.（A2）	「化学生命工学基礎実験」,「生物工学実験」で，化学物質やバイオ材料の安全な取り扱いについて理解し，正しく行動できることを，実験に取り組む姿勢・態度，試験，レポートにより評価する．化学生命工学基礎実験では姿勢・態度（15%），終了テスト（25%），レポート（60%），生物工学実験では姿勢・態度（貢献度）（40%），プレゼンテーション（20%），レポート（40%）により評価する．それぞれ評価の 25%，12.5%に相当する．	左記の授業科目を必ず履修し，単位を取得していること（必修科目，卒業要件に含まれる科目）． 左記の科目は学科目標 A2 のコアとなる科目である． 教育目標を達成するために必要な 35 ポイント中 31 ポイントをこれらの科目で達成する．
	多様な価値観があることを理解した上で，地域的にも国際的にも役立つ専門知識を持っている． （A2）	基礎教育総合科目、特に「生活と倫理」,「人権論」,「物質の科学」により，人権の変遷，倫理観，科学観の多様性を理解し，自ら考えることができることを，レポート，終了テスト等により評価する． 「東広島学」で，ボランティア活動を通じ，地域との関りを理解し，社会活動の意義や生き方を自ら考えることができることを，履修簿，フィールドワーク実習状況から評価する．	左記の科目は選択科目であり，選択履修し単位を取得し，合わせて 4 ポイント以上獲得すること． 4 ポイント以上獲得すれば，教育目標 A2 のコア科目とあわせて達成基準である 35 ポイント以上獲得することができる．
	衛生に関する基礎的な知識，特に技術者として衛生に配慮して活動するための知識を持っている． （A2）	「食品衛生学」で，食の安全性に関する知識を，小テスト（20%），中間テスト（30%），終了テスト（50%）により評価する．評価の 25%に相当する． 「公衆衛生学」で，生活環境の中で衛生が果たす役割や，衛生を実践するために必様な知識を持っていることを，小テスト（20%），中間テスト（30%），終了テスト（50%）により評価する．評価の 25%に相当する．	